平和の集い（敬老会交流会）

H２８．８．９(火)

今日は、８月９日、長崎に原子爆弾が投下された日です。地域の方々に来ていただき、５歳児虹組が平和について考える「平和の集い」に参加しました。

今年の５月に地域の方々と一緒に、爆心地公園や平和公園を見学し、そこでおじいちゃんおばあちゃんたちの話を聞きながら、「戦争」や「平和」についてこれまで考えてきた子どもたち。

今日は、みんなで「いわたくんのおばあちゃん」というDVDをみた後に、おじいちゃんやおばあちゃんに質問しながら、平和について考え・感じる時間をいただきました。

【子どもたちからの質問】

１．戦争の時、何を食べていましたか。
（何でも食べ物があったのかな…という想いから）

２．防空壕に入れなかった人は、どうしていましたか。
（平和公園の近くで防空壕をみたけれど、小さくてたくさんの人が入れるようには見えなかったから）

３．戦争の時に、何をしていましたか。
（私たちみたいに、たくさん遊べたのかな…という想いから）

おじいちゃん、おばあちゃんより「戦争の頃食べていたものはさつまいもがほとんどだった」「めざしも栄養価が高いので食べていた」「お腹いっぱいに食べることができなかった」「今、私たちは欲しいと思えばお店もあるし、お金を出してすぐに物が手に入るけれど、戦争の頃はお店に行っても物が置いていない時代で、お菓子もごはんも洋服も靴も…ほしいと思っても手に入らなかった」「食べ物がないので山の中で食べることができる葉や根っこを探すのが仕事だった」「家の中の床下や庭などを掘って防空壕を作っていた」など、さまざまな体験の話をききました。子どもたちもその表情をじっとみて、話に耳を傾けていました。辛い体験もあるでしょうが、それでも皆様が語ってくださる姿に、子どもたちや私たちに「もう二度と同じ経験をさせたくない」という想い、子どもたちの幸せを願う真剣な想いを感じました。平和について子どもたちには理解する上での難しさもありますが、「今自分たちができることを考えてみること」と、「長崎」に住む子どもたち・私たちも真剣に「平和」について向き合い、それを伝えていくことの大切さを痛感した一日でした。